



大
義
省

貿易製造局規則

1615



414
A2762

貿易製造局規則



一千八百六十八年六月二十九日議院議決ヲ以テ貿易製造事務局ヲ建置スル事

第一條 一般定則

貿易製造事務局建置ノ法則同位置及ヒ管轄ノ事

第一章 埤國內貿易及製造ノ利益ヲ謀ニカ為全國ヲ區分シ貿易製造事務局ヲ置ク事 左ノ如シ但シ之ノ局又鑛山ノ業ヲ管轄ス可キ事

第一 維府

ウシテルユマニルヲイヒテ管轄ス

天正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

第二 リンツ
フォーベルエステルライヒ同

第三 サルツブルク
サルツブルク 同

第四 クラウ
スタイヤマルクヲ分割シテ管轄ス

第五 レヲベン
同

第六 クラウゲンフルトガルニテ管轄ス

第七 ライバツク
クライニ 同

第八 ケルフ
ゲルツ及グラシスカ 同

第九 ロヒダノ
イストリエニ 同

第十 トリースト
トリースト府其管轄地 同

第十一 イ、ンスフルツク

第十二 ボッセン
キロールヲ分割シテ管轄ス

第十三 ロベッド
同

第十四 ヘルトキルク
ホラールベルグヲ管轄ス

第十五 アラゲ
同

第十六 ライヘンベルグ
バーメンヲ分割シテ管轄ス

第十七 エーゲル
同

第十八 ビルセン
同

第十九 ブドワイス
同

第二十 ブリュウ
メーレン同

第二十一 ヲルミツ
同

第二十二 トロツパウ スレシエンヲ管轄ス

第二十三 クラカウ カリキエニロトメリエン

第二十四 レンベルグ クラカウヲ分割シテ管轄ス

第二十五 ブロシイ

第二十六 セルウヰツブエウイナヲ管轄ス

第二十七 ザラ

第二十八 スブラト人 ダルマキエンヲ分割シテ管轄ス

第二十九 ラグサ

貿易製造管轄區ノ分界縣政ノ分界ト一致セサル者
アリ貿易製造ニ関スル事ニシテ又之レガ為縣廳ニ関ス

ル事ハ貿易製造區内ニ在ル縣廳ヨリ之レヲ管轄スル事
貿易製造ノ分界ヲ変シ貿易製造事務局ヲ他ノ地方ニ
移シ既ニ設アル局ヲ廢シ或ハ更ニ局ヲ設クル等ノ事皆之ノ
法則ニ基キ施行ス可キ事

第二章 貿易及製造局ハ即チ貿易及製造ノ事務ニ
関スル議官ニシテ左ノ事務ヲ司ルモノトス

第一 總テ貿易製造ニ係スル事件ニ付建議歎願アル
時ハ之レヲ商議ス可キ事

第二 貿易製造ニ係スル急務ノ事件并交通(鐵路
航海)便宜ノ模様ニ係スル建言有時ハ之レヲ商議

ス可キ事

第三 商法製造ニ係スル法則ハ政府ヨリ之ヲ公布シ
施行スルノ前之ノ局ト商議アル可キ事

第四 貿易及製造ヲ進メニガ爲此目的ヲ以テ建ル公
營學校ノ類ヲ建置シ或ハ其ノ方法ヲ改革スル等ノ
事ハ必ス此局ト商議アル可キ事

第五 總テ政府ヨリ買入ル物品(假令ハ武器ノ如キモノ)有
之時ハ其物品ノ得失各局互ニ評議アル可キ事

又其他此局ハ左ニ舉クル事務并權利ヲ有スル事
第一 貿易製造局事務掛リヲ撰擇ス可キ權ヲ有

スル者ノ名簿ヲ調ヘ諸製造品ノ極印并見本具ツ其
記事ヲ正シ區内貿易製造貨幣證票ニ關スル事
毎歲統計表ヲ添貿易事務省ニ可差出事

第二 物品及證票賣捌方ノ中立人ヲ試験シ之ヲ撰ビ
又相場立者及貿易裁判立會者ヲ撰擇ス可キ事

第三 貿易上ノ條約貿易ノ表目物品見本并總テ政府ヨ
リ買入レ可キ物品ヲ検査ス可キ事

第四 貿易及製造ニ關スル事件ニ付互ニ相論ノ生スル事
ハ之ニ關スル所ノ律書ニ準照シ衆議審判ノ上曲直
ヲ正ス可キ事

第五 每歲四月ノ末迄ニ區内前年ノ貿易製造ニ関スル
ル總テノ事件明細ニ取調ハ統計表ヲ添貿易事務宰相
相ノ開申ス可キ事又此時ニ當リ建議歎願ノ廉フル
時ハ之レニ書加可キ事

又五年毎ニ區内一般經濟上ニ関スル情實精詳ニ取調
諸表ヲ添ハ貿易事務宰相ニ公告ス可キ事

縣廳及諸會社ト貿易製造局トノ關係并貿易
製造各局トノ交際

第三章 貿易製造局ハ直ニ貿易事務宰相ノ下ニ位シ各
一區内貿易製造ノ事務ニ付テハ專ラ之レヲ處分スルノ權

アル可キ事又事宜ニヨリテハ諸省及ヒ區内ノ縣廳ニ建
議歎願ス可キ事ヲ得ベシ區内縣廳始諸會社貿易
製造ノ主人等各其職掌ニ関スル明細取調書貿易製造
事務局ヨリ可差出旨ヲ乞フ時ハ之レヲ差出総テ協力ス
可キ事

貿易及製造局ハ互ニ區内ノ情實ヲ達シ各局一定ノ方法ヲ
執行ス可キ事

第二條

集會之事

貿易製造事務區分之事

第四章 各局必ス之レヲ二區ニ別ツ即チ貿易事務ノ區及
製造事務ノ區但シ鑛山業ノ事務ハ製造事務ノ區ニ
屬スモトス又此局中各段ナル事業ノ為別ニ區ヲ設クル
ノ議ル時ハ貿易事務宰相之レヲ許可ス可キ事
各局少クトモ十六人多クトモ四十八人ノ事務掛リヲ置ク
可キ事但シ其内幾負カ局ノ設ケアル地方ニ住居ス可
キ事
各局事務掛リノ數區々中ノ負數并全負ノ内幾負カ設
局ノ地ニ住ス可キ數ハ貿易事務宰相之レヲ定ムルモノト
ス其他事務掛リヲ撰擇スルガ為ノ貿易製造主人ノ等

級ヲ定ムル事

但シ此人負等級ハ時宜ニヨリ時々交換サレ可キ事

貿易製造事務掛ノ事

第五章 貿易製造局事務掛ハ給料無之事貿易製造
事務掛リニ二別アリ本官貿易製造事務掛及建言
貿易製造事務掛(建言貿易製造事務掛リトハ區内
貿易製造ノ事ニ付可論廉アル時ハ之レヲ建言ス可キヲ
以テ云本官事務掛リノ如ク事務ヲ不執)建言貿易製
造事務掛リハ局中本官事務掛ノ者ヨリ投表ニ依テ撰
擇サル者ナリ其負數ハ區内ノ大小ニ應テ此者ハ設局

ノ地方内ニ不住或ハ貿易製造ノ主人ニ無之トモ撰擇サ
レ得ベシ又此掛リハ其局ノ集會ニ出席シ討論ス可キ權
アルトイハ氏議ヲ決スルノ權ヲ有セザル事

本官事務掛ヲ任スル事

第六章 本官事務掛ハ在職六年ヲ以テ期トシ三年毎ニ
十二月三十一日在職年間ノ久シキ者ヨリ半ヲ 退役セシメ更ニ
之ヲ撰擇ス若在職年間ノ同シキ者アル時ハ闌ヲ以テ之
ヲ定ム可シ但シ假令ヒ一度退役セシ者トイハ氏再撰サレ
得可キ事

若シ撰擇期限内多少人負ノ欽クル時ハ前撰ノ時投票ノ多キ

者ヲ以テ之ヲ本官事務掛トナシ其欠ヲ補フ然レ氏如此
者ハ次ノ撰擇ノ期迄ヲ限ル可キ事

本官事務掛ヲ撰擇ス可キ權及撰擇サレ可キ權

第七章 撰擇ス可キ權利

第一 民權ヲ有シ其區内ノ住民ニシテ貿易製造或ハ
鑛山業ヲ以テ獨立スル者即チ公然タル其社中ノ者
并社長或ハシレクトルトナリ貿易製造大會社企
ヲ興シ一ケ年少クトモ百グルデンノ租税ヲ收ムル者此
權利ヲ有ス
但シ撰擇スル權ヲ有スル租税高ノ割ハ其區内ニ

依リテ異同アリ事務宰相ノ令ニヨル

トリーストニ於テハ是迄國會ニ撰擇ス可キ權アル者ノ租税ノ割ニ從フ

若シ婦女子ニシテ業ヲ保テ後見アリテ之ヲ助クル者ハ其者之ニ代リテ其權利ヲ有ス

以上舉クル所ノ撰擇ス可キ權利ハ各其區内ニ限ル可キ事貿易製造局ノ本官事務掛トナル可キ權利ヲ有ス

ル者

第一 貿易製造ノ主人ニアリ墺國ノ人民ニシテ年齡三十歳ヲ越テ三年以來撰擇ス可キ權利ヲ有シ

一區内ニ住居スル者此權利ヲ有ス

トリーストニ於テハ墺國ノ人民ニ無之共其他此撰擇サレ可キ權利ヲ有スル者ナレバ撰擇バレ得可キ事但シ全實ノ三分ノ一ヲ越ル不可事

國會ニ付撰擇ス可キ權利及ヒ撰擇サレ可キ權利ヲ有セザル者ハ又茲ニ此兩權ヲ有不可事

撰擇掛 撰擇法 撰擇公告

本官事務掛撰擇ノ時ニ當リテハ縣廳ヨリ撰擇掛リヲ命ス又其他此掛リノ全權タル者ヲ擇ベリ之ハ貿易事務宰相ヨリ命スル所ノモノナリ

前ニ云撰擇掛リハ設局地方ノ國會掛一頁其他貿易
製造本官事務掛兩三頁及書記官タリ但シ未夕
貿易製造事務局無之更ニ設クル時ニ臨テハ區
内貿易製造ノ主人ヨリ人望アル者ヲ之レニ任ス
事務掛撰擇ノ法ハ先ツ第一ニ撰擇掛リノ者ヨリ第二
ニ論スル撰擇ス可キ權利ヲ有スル者ヲ調フ若シ未夕
貿易製造事務局無之ノ權利ヲ有スル者ノ調未
整時ハ其旨ヲ區内ニ公布シ日限ヲ定メ十四日ノ内ニ可申
出旨ヲ達ス而後之レヲ申出ル時ハ其撰擇ス可キ議案
人負等ヲ示シ投表ヲ製シ日限時刻ヲ定メ可差出旨

ヲ公告ス

撰擇施行ノ事

第九章 撰擇ハ公ニシテ擇ヒ人ノ意ニ從テ或ハ之レヲ建
言シ或ハ投表ニ詳記シ姓名ヲ記シ撰擇掛リニ之レヲ出
ス可キ事

各貿易製造ノ主人大小ニ由テ之レヲ三級ニ別ツ即チ
左ノ如シ

貿易製造主人

第一級

三百十五グルデン以上ノ租稅ヲ收ル者

第二級

百五グルデンヨリ三百十五グルデン迄同

第三級

二十一グレンヨリ百五グレン迄 同

以上ハ維府ノ割合

撰擇ノ時ニ臨テハ假令右一級ノ者ヨリ多ク撰擇ノ投票ヲ受
ルトイヘ氏之レヲ以テ衆望ノ帰スル者トセス三級ヨリ相合
シ投票ノ多キ者ヲ挙ク若シ投票同數ヲ受クル者ハ撰
擇掛リヨリ闡ヲ以テ之レヲ定ム可キ事

撰挙サレシ人名決定セシ時ハ撰擇掛リヨリ之レヲ公布ス可
キ事

撰擇サレシ者ハ報告ノ事

第十章 投票ニ由リ既ニ撰擇サレシ者ハ撰擇掛リヨリ之レ

ヲ報告ス可キ事 之レヲ報告セシ後ハ撰擇サレシ者ヨリ
之レヲ請ク可キ旨ヲ通セサル氏ハ日ヲ過ル後ハ既ニ本官事務
掛リト定ム可キ事

撰擇サレシ者ノ人名ハ撰擇掛リヨリ詳ニ記シ縣廳ヨリ覽
易事務宰相ニ可差出事

本官事務掛退役ノ事

第十一章 本官事務掛ノ内前第七章ニ示ス如ク故障等
アリテ國會撰擇ノ權利ヲ削ラル、者ハ退役ス可キ事
本官事務掛不審ノ虞アリ裁判吟味中或ハ裁判ノ引合
ニ関スル時ノ吟味中退役ノ事

本官事務掛自己ノ職掌ヲ怠タル時ハ貿易製造局
ノ議決ニ由リ退役可申付事此議決ハ局中掛ノ者ノ
議半ヲ越ルヲ以テ定ム
若シ久シク病ニ罹リ或ハ妨ケ等アリテ出席サレ不可時ハ
退役ス可キ事

開局法則

第十二章 更ニ局ヲ設ケン時閉局ノ時日ヲ定メ法則ヲ設
クル等ノ事ハ貿易事務宰相ノ定ムル所ナレ氏既ニ之レ
ヲ開シ後ハ其局中本官事務掛リノ内年齡多キ者ニ
全權ヲ任ス可キ事

第三條

職掌

統領及副統領

第十三章 各貿易製造局毎歲始テ集會ノ節投表
ヲ以テ本官事務掛ノ内ヨリ統領一員副統領一員ヲ撰
ス可キ事但シ統領副統領共衆望歸スル時ハ一年ニ不
限再撰サレ可キ事

トリストニ於テモ統領及副統領ハ墺國人民タルベキ事
(第七章ヲ参考ス可シ)

統領及副統領妨アリテ出席セザル時ハ退局中假ニ本

官事務掛上席者一員ヲシテ之ニ代ラシムル事

統領退局中引續キ上席タル者ノ拱擇ノ貿易事務

宰相ノ令ニヨル貿易事務宰相ヨリ令アル迄ハ令假ニ

上席トナシタル者ヲ以テ局長トス

書記官及補助ノ役

第十四章 書記會計ノ事務ヲ司ラシムルカ為本官事

務掛ノ外別ニ其任ニ當ル可キ者ヲ拱テ之ニ書記官及

其他補助ノ役ヲ命シ相當ノ給俸ヲ與フ但シ右ノ者ハ總

テ統領ノ指令ヲ受ク可キ事

統領ノ權及事務

第十五章 統領ハ局ノ法則ニ代ル者ニシテ集會ニ評議ス

可キ件并其順序ヲ定メ法則ヲ立局中ヲ保護シ事

務ノ成否ヲ監視議ヲ決シ局中ノ諸務統領ノ債ニ任ス

○局中ノ議一決ストイハ氏統領ノ意之レニ不適時ハ其議

ヲ止ムル權アリ然ト云ハ氏疑問ノ虞アル時ハ或ハ直ニ或

ハ局中再議ノ上貿易事務宰相ニ建言シ宰相ノ議

ヲ待テ之レヲ所置ス前條總テノ事務書記官ヲシテ

之レヲ記載セシムル事

統領事故アリテ妨ラレ出局セズ或ハ他國ニ出不在ノ

時ハ副統領之レニ代ル者トス若又副統領モ不在時ハ

局中上席ノ者ニ其權ヲ與フル者トス

本官貿易製造事務掛ノ職務

第十六章 本官事務掛リハ集會ニ出席シ區内ヨリ建
言報告セシ諸件ヲ商量シ之レヲ評決ス可キ事

集會

第十七章 局中集會ニ類アリ即チ通常集會及ヒ

非常集會

通常集會ハ議スル可キ件アル時ハ直ニ之レヲ設ク
少クトモ毎月一度ノ集會ヲ設ク可キ事

非常集會トハ非常ノ件起リ貿易事務宰相或ハ

統領ノ令ニヨリ或ハ本官事務掛ノ者三人ノ一相合シ
テ集會ヲ設クル可キ議ヲ興ス時ハ之レヲ施行スル者
トス

集會ノ時ニ臨テハ統領ヨリ前以テ詳議ス可キ件ヲ定メ
報告書ニシテ之レヲ本官事務掛リニ示ス可キ事
報告書外ノ件トイハレ決議ニ關スルノ件ハ之レヲ議スル
モ不苦

集會決議ノ上ハ列席ノ者ヨリ商議セシ件ヲ詳ニ記シ之
レニ統領及列席ノ者姓名ヲ記ス可キ事 議決ニ同説
ノ者ハ各我意ヲ之レニ書加ル事不苦事

集會ハ総テ之ヲ公ニ施行ス可キモノナレバ然レバ諸
官省縣廳ニ關係シタル事アリテ事宜ニヨリ諸官
省縣廳ヨリ之ヲ秘スル可キ旨ヲ達シ或ハ人ノ曲直ニ關
係スル等ノ如キ事アリ列席ノ者ヨリ之ヲ秘ス可キ旨ヲ
言出し其他爭論等ニテ裁判ニ關ハル等ノ事ハ之ヲ
秘スル可キ事

局中費用ニ關スルノ件ハ必ス公然タル集會タル可キ事
公然タル集會決議ノ上其旨ヲ議載^詳シ出版公告ス可キ
事

決議ノ事

第十八章 集會ハ少クトモ本官事務掛ノ半ハ列席セズン
ハアル不可衆議真ニ一致スルヲ以テ之ヲ議決トス若シ衆
議ニ説ニ別ルハ統領ノ之ニ共スル方ヲ以テ議決トス

事務報告ノ事

第十九章 各貿易製造局ハ區内貿易製造ノ盛衰ヲ商
量シ貿易製造ノ件ニ付建言報告スル時ハ集會ヲ設
ケ局中總テノ事務法則ニ準照シ衆議ノ上決議シ貿
易事務宰相ニ可報告事

集會掛リ

第二十章 貿易事務宰相ヨリ集會掛一頁ヲ擇ヒ集

會ノ時ハ必ス之レヲシテ列席セシム此掛リノ者ハ集會ニ論説ヲ興スノ權ヲ保ツトイヘ氏議決ノ權ヲ不保事

第四條

費用ノ事

第二十一章 各貿易製造局ハ前以一ケ年局中ノ入費ヲ積リ毎歲九月ノ末迄ニ縣廳ノ手ヲ歷貿易事務宰相ニ可報告事

局中多年在職セシ官吏退役後非役給料トシテ在職給料ノ何分カヲ給興ス右入用トシテ局中費用ノ百分ノ五迄ハ別段之レヲ請取候事若シ費用之レヲ越ユル

件ハ局中決議ノ上其旨ヲ貿易事務宰相ニ可申立事

貿易製造局ノ入費若シ前以テ定メタル定額ヲ越ルハ其區内鑛山業貿易製造ノ主人ヨリ其不足ヲ補ハシム尤モ之レヲ取立ルノ割ハ直税ノ割ニ從フ者トス若シ會議等ニ付家屋其外等入用ノ時ハ其區政ヨリ入用ヲ以テ之レヲ補助スル事
各貿易製造局毎歲局中前年ノ入費ヲ算計シ三月ノ末迄ニ貿易事務宰相ニ可開申事 貿易事務宰相検査ノ上八直ニ之レヲ公布ス可キ事

書翰往復張印ノ事

第二十二章 貿易製造局ト貿易事務宰相并諸官
省局中及事務掛撰擇ニ付テノ書翰往復ハ無賃之
事

貿易製造局へ差出マ書面ハ諸官省ニ出ス書面ノ如ク
張印有之候事

第五條

廢局之事

第二十三章 本官事務掛リノ内或ハ事故アリテ退役
シ或ハ死去スル者アリテ三分ノ二ヲ減スル時ハ貿易事

務宰相ノ令ニヨリ廢局サル可シ然レモ三月ノ内必ス
更ニ撰擇サレ可キ事

第六條

一般法則ノ事

第二十四章 前條ノ法則報告ノ日ヨリ施行サレ可キ事
第二十五章 貿易製造局ハ前條ノ法ニ則リ充テ事
務ヲ盡ス可キ事

此法則中第二條ノ件ハ貿易事務宰相各貿易製
造局ト商議ノ上楯各局別ニ精詳ノ法ヲ設ク可キ
事

第二十六章 此法則ニ基キ貿易製造局諸務ヲ督スル
ノ權ハ貿易事務宰相ニ委任ノ事

フランツヨセッフ

エウエルスヘルク
フレ子ル

大
藏
經